

2025 年日本国際博覧会 環境影響評価方法書

【要約書】

令和元年 11 月

公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会

1. 事業の概要

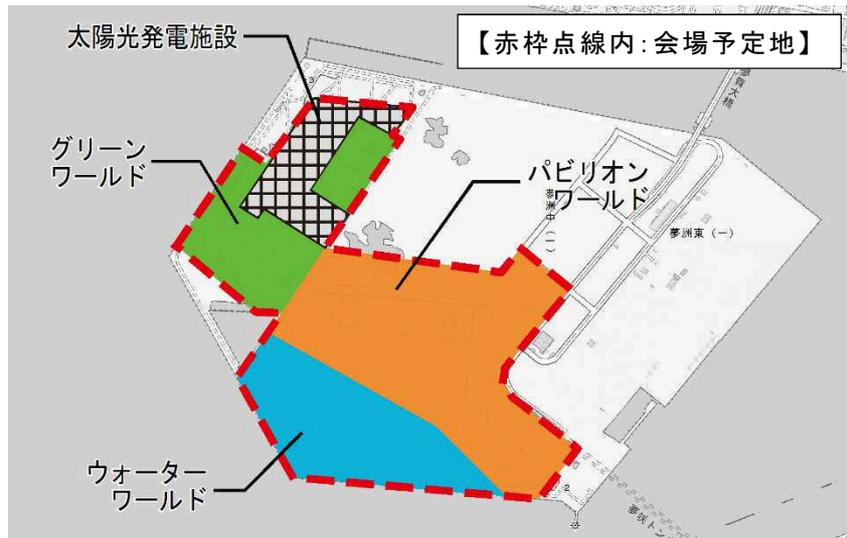
(1) 事業の名称、事業者及び種類

名称	2025年日本国際博覧会
事業者	公益社団法人2025年日本国際博覧会協会 会長 中西宏明
事業の種類	・都市計画法第4条第 12 項に規定する開発行為を伴う事業(施行区域の面積が 50 ヘクタール以上であるものに限る。) ・自動車ターミナル法第2条第4項に規定する自動車ターミナルの新設の事業(同時に駐車することのできる自動車の台数が 1,000 台以上である駐車場等を設けるものに限る。)

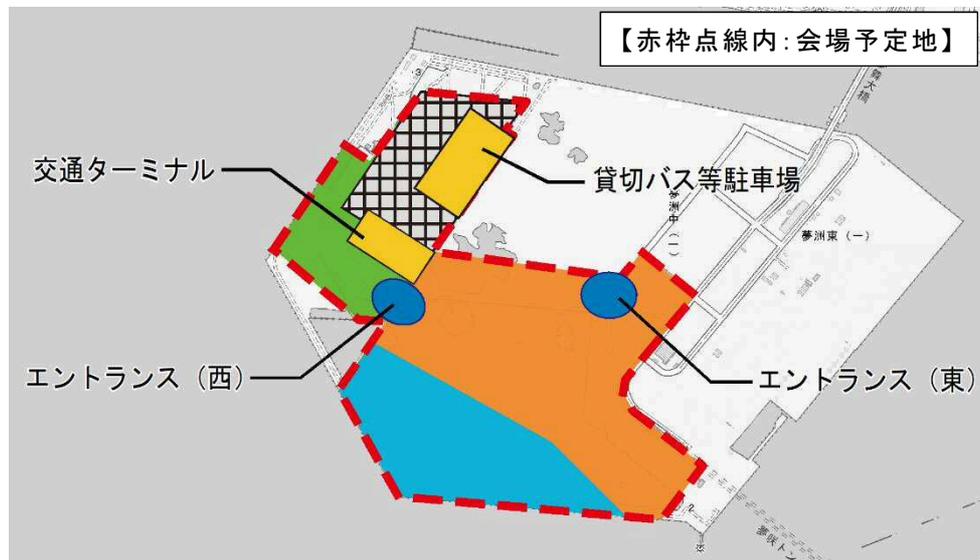
(2) 事業の目的及び内容

目的	<p>本事業は、2025 年に、大阪府大阪市において、国際博覧会条約に基づく国際博覧会を開催するものである。</p> <p>本博覧会は、『いのち輝く未来社会のデザイン』をテーマとしている。このテーマは、人間一人ひとりが、自らの望む生き方を考え、それぞれの可能性を最大限に発揮できるようにするとともに、こうした生き方を支える持続可能な社会を、世界が共創していくことを推し進めるものである。</p> <p>また、本博覧会は、2015 年 9 月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」にて記載された 2030 年までの国際目標である「持続可能な開発目標 (SDGs)」の達成に貢献するものとしている。</p> <p>さらに、本博覧会は、その会場を「未来社会の実験場」として、新たな技術やシステムを実証する場と位置づけることで、多様なプレーヤーによるイノベーションを誘発し、それらを社会実装していくための巨大な装置としていくこととしている。</p>
位置	此花区夢洲(会場予定地)、此花区舞洲((仮称)舞洲駐車場候補地)
面積	会場:約 155ha、(仮称)舞洲駐車場候補地:未定(7,500 台想定)
開催期間(予定)	2025 年 5 月 3 日から 2025 年 11 月 3 日まで
開催時間(予定)	午前 9 時から午後 10 時まで
想定入場者数	約 2,820 万人(平均 15.2 万人/日、最大計画日來場者 28.5 万人/日)
会場計画	パビリオン、会議・セミナー及びプレゼンテーション施設、エントランスゲート、メディアセンター、迎賓館、サポート施設(飲食・物販施設、休憩スペース、トイレ、緊急看護施設・警護施設、案内所、博覧会協会本部・バックヤード)
ゾーニング	パビリオンワールド、グリーンワールド、ウォーターワールド
延床面積	約 25.5 万㎡
その他	広場、インフラ整備(電気、ガス、通信、上水、雨水、汚水、空調用冷水を想定)、緑地 等
動線計画	大阪メトロ中央線(北港テクノポート線)が全体の約 40%、空港や主要駅からのシャトルバスが約 20%、そのほかの自家用車・団体バス・タクシー等が約 40%の分担率を想定

【会場ゾーニング】



【エントランス、交通ターミナル(乗降場)及び貸切バス等駐車場の配置計画】



【(仮称)舞洲駐車場候補地及び(仮称)夢洲駅】

